

平成26年1月7日発行

# 須木中だより



昨年12月8日に行われた  
駅伝・ロードレース大会  
餅つき大会

## 平成26年のスタートです。

1月6日(月)から、第2学期後半がスタートしました。全校集会で、新年の抱負を各学年の代表の生徒に発表してもらいました。1年代表の田尻波瑠佳さんは、「何事にも積極的に取り組むこと、自分の考えをしっかりとめるようにすること」を、2年代表の山中 碧さんは、「文字を丁寧に書くこと、集中力を養うこと、読書を増やして読解力をつけること」を、3年代表の市来健志郎君は、「高校入試に向けて全力を出し、高校でたくさんの資格を取り将来に備えること」を発表しました。

発表をしなかった生徒も、みんなそれぞれに新年の抱負を考えていました。

その表れとして、宮崎日日新聞・子ども新聞の新春号には、下の3つの作品が特選・佳作として掲載されました。



### ◆特選◆

新春

永井 菜奈(須木中)

私はあの門をくぐれているかな  
友だちと別れないといけなかな  
勉強だってできるかな  
一人ぼっちじゃないかな  
考えれば考えるほど  
不安があふれてくる

あの日の私は笑えているかな  
でもきつと新しい年で  
良い年になっているよ

だって今までは違う年  
今までは違う自分  
今までは違う生活

どんな困難があっても  
誰かが必ず助けてくれる  
だから  
頑張ってみよう  
この春を人生のスタートに

### ◆佳作◆

初空を見上げて抱負叫びけり

大矢 早姫(須木中)

### ◆佳作◆

初詣をお願いしますトラックの運転手になり木を運びたい

野田 幸一(須木中)

また、集会では、次のような話をしました。

1月2・3日に箱根駅伝がありました。1年ぶりに東洋大学が4回目の優勝をしました。90回という節目を迎えた伝統ある駅伝ですが、14回優勝の中央大学を筆頭に、10回以上優勝したことのある早稲田大学、日本大学、順天堂大学、日本体育大学の伝統校からすると、東洋大学は新参校です。しかも、これまでの3回の優勝は、一昨年まで在学した「山の神」と言われた箱根の山登りのスペシャリスト柏原君がいた4年間の間だけです。しかし、昨年日本体育大学に敗れ、やっぱり柏原君がいないと勝てないと言われ、大変悔しい思いをして、しかも、下馬評では駒澤大学が強いと言われていたので、なんとしても優勝したいという思いで、「その1秒を削り出せ」という合言葉を腕に書き、レースに臨んだそうです。

一人一人が今の限界から、1秒でも0.5秒でも上を目指し、その力を結集してチーム力にしていこう、という思いだそうです。そして、新参校でもここから伝統をみんなで作っていこうという気持ちの表れだそうです。

今、須木中は、文武両面での活躍が話題になっています。もちろん、今までの先輩たちも大いに活躍していたことと思いますが、今の須木中には勢いがあります。この状態が須木中の伝統となるようにしてほしいと思います。チーム力といっても、その基盤は一人一人の力です。須木中の新たな伝統を作っていくためにも、今日立てた新年の抱負を達成し、一人一人が一歩でも二歩でも成長していけるよう努力してほしいと願っています。

